

# 経済・金融フラッシュ

No.07-173 2008/03/21

## 07年10-12月期資金循環統計～家計金融資産は2四半期連続の減少

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 矢嶋 康次

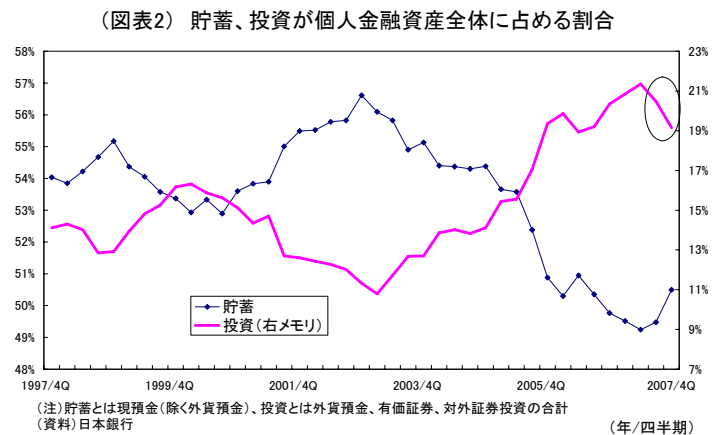
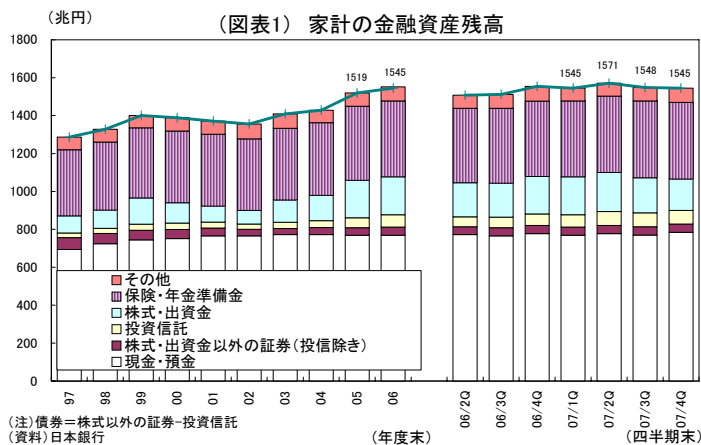
TEL:03-3512-1837 E-mail:yyajima@nli-research.co.jp

### 1. 個人金融資産残高 (07年10-12月期末) : 2四半期連続の減少

07年10-12月期末の個人金融資産残高は、株価下落などを受け7-9月期から3兆円減の1,545兆円となった。資産残高の減少は2四半期連続となる(図表1)。

残高では、現金・預金が784兆円、保険・年金準備金が404兆円、株式・出資金が165兆円の順番が多い。

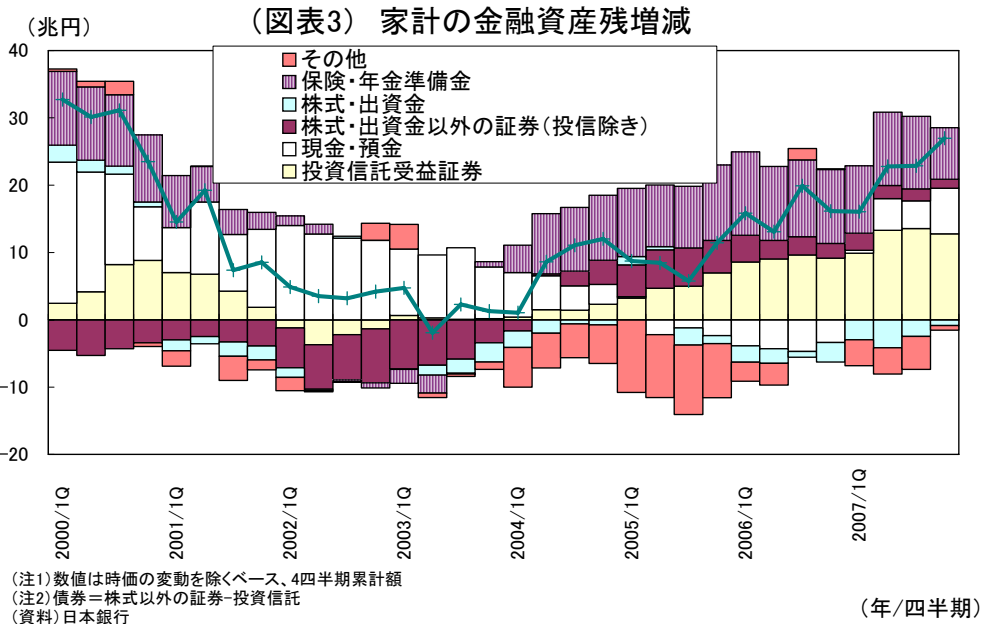
図表2のように貯蓄と投資に分けてみると、サブプライム問題の影響拡大や金商法の改正などが響き、03年1-3月期から続いてきた投資への流れは、大きく屈折している。



### 2. フローの動き : リスクから安全資産へ

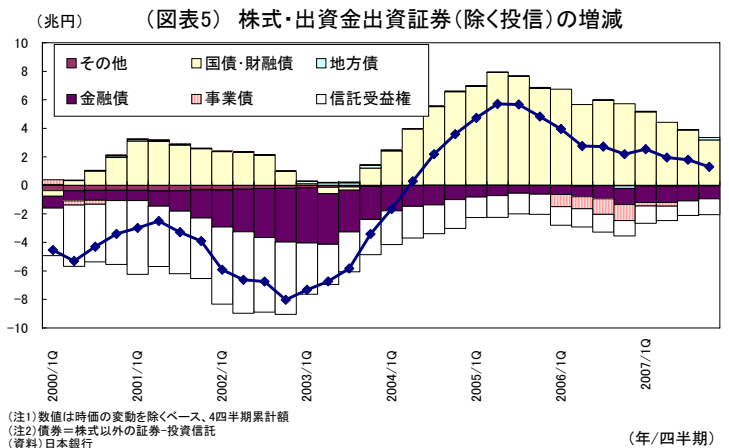
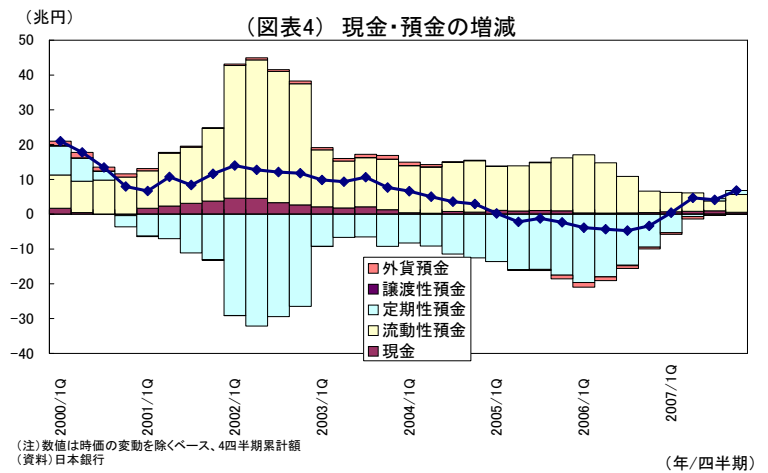
金融資産の増加内訳を見ると(時価の増減を除き、4四半期累計での金額)、増加が大きいのは投資信託(12.8兆円)、保険・年金準備金(7.7兆円)となっている。

一方、減少が大きいのは株式・出資金(マイナス0.9兆円)となっている(図表3)。増減の動きは前四半期と同様となっている。



個別の内訳の特徴としては **(時価の増減を除き、4四半期累計での金額)**、

- ① 投資信託への流入額が4四半期ぶりに縮小(図表3)。
- ② 現金・預金が4四半期連続のプラス(図表4)。
- ③ 定期性預金が2四半期連続のプラス(図表4)。
- ④ 証券(投資信託を除く株式・出資金以外の証券)では、引き続き金融債、信託受益権からの資金流出が続く。一方、国債への流入はプラスが続いているが、流入額は縮小傾向が続いている(図表5)。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものでもありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)